

「阪谷の今を考える座談会」第11回 ご報告

開催日：令和7年3月7日（金） 午後7時～

場 所：阪谷公民館 2階 大広間

参加者：22名

テーマ：第六次大野市総合計画について



◎ ～みなさん第六次大野市総合計画をご存じですか？～

総合計画とは大野市のまちづくりの目標と方向性を示す非常に重要なもので、大野市では、令和6～7年度の2年をかけて後期基本計画（令和8～12年度）を策定します。

今回は、市の担当部署の職員も参加し、みなさんと意見交換を行います。今後の大野市の施策の基本的方向にみなさんの意見が参考となります。

①情報共有

- ・第六次大野市総合計画についての簡単な説明
- ・「ウェルビーイング」「シェアリングエコノミー」「ジェンダーギャップの緩和」（施策展開の新たな視点）についての説明
- ・市民意識調査（令和6年9月実施）の結果説明

②意見交換

- ・阪谷地区とも関係が深いと思われる「子育て」「地域福祉」「農業」のテーマに分かれ意見交換

【座談会の目的やルール】

〔目 的〕

- 阪谷地区の今について、みんなで思っていることや考えていることを自由に話し合っ、そこから地域の問題解決のヒントになるようなことがないか、阪谷の望ましい将来像とはなどについて考えましょう。

（※みなさん、地域のいろいろな団体や会で役などをされているとは思いますが、ここでは、一個人として思いや考えを言っていただければと思います。）

〔ルール〕

- この会で結論をとることはしません。みなさんの意見は貴重なご意見として主催側で参考にさせていただきます。ですので、他者の意見に同調するのは大いにOKですが、否定することはやめましょう。

〔その他〕

- この会で出た意見は、貴重な意見として公開（氏名等は公開しません）することにご了承ください。

【座談会の様子】



【座談会（第11回）で出た感想、意見等】

〔3テーブルに分かれて、テーブルごとで下記テーマ等について意見交換〕

主なテーマ：第六次大野市総合計画について（現状と課題）

第1テーブル【テーマ：子育て】

【意見交換の場について】

- ◆ 意見交換の場がもっとあるといいと思う。
- ◆ 放課後こども教室の運営に携わっている子育てクラブなどでは、いろいろなことを考え、意見が出されているが、このような場には参加しにくい。子育てについての支援なども知りたいので、グループの集まりに市役所の関係課が来て、話を聞いてくれる機会を作ることはできないか。（→市のわくわくお届け講座を活用してほしい）

【結婚に対する意識について】

- ◆ 子育ての検討をする時に、結婚について若者が真剣に向き合えるような環境づくりが必要。
- ◆ 家庭を持つこと、結婚することに対しての認識、魅力を感じることができると良い。
- ◆ 昔は、近所や親戚に世話を焼く人がいたが、今はそのようなことはなかなか言えない。
- ◆ 家庭でも、結婚の話題に触れられない、または触れにくくなっている。
- ◆ 結婚しようとする意識づくりは大切ではあるが、結婚という個人的な問題にどこまで行政が踏み込めるのかという思いはある。
- ◆ 結婚が全てという時代でなくなっている。
- ◆ 若者が希望する生き方を応援する。
- ◆ 結婚、子育てに対する魅力は、先輩からも教わっていた。
- ◆ 結婚や子育ての魅力を、子どもに触れることで中学校や高校で教えてもらえると良い。

【若者への対応について】

- ◆ 価値観の多様化は進み、人との対話を楽しめない人がいる。
- ◆ 日常的に人づくりをしているといった雰囲気づくりが幸せや満足度につながるのではないか。
- ◆ 今の環境では人と話さなくてもすむような状況になってきているが、人と話す場を設けることが必要ではないか。
- ◆ 親子の会話をはじめとした、家庭での会話が少なくなっている。
- ◆ 以前テレビで、引きこもりをゼロにした自治体があるというのを見た。
- ◆ 今の社会から乖離したところで生活している人がいる中、そういったことをなくしていくために、地域住民、行政ともに課題を共有していく必要があるのではないか。
- ◆ ある程度成果が見えるまで頑張ってみることも必要だと思う。

【ジェンダーについて】

- ◆ 年代によって考え方が違う。
- ◆ 最近は、お父さんが子育てすることに抵抗がなくなっている。

- ◆ 若い人と交わっていると、これまでの考えが薄れていくが、交流しない人は家庭での考え方や行動が固定化している。

【学校再編について】

- ◆ 学校再編で、中学生は陽明中学校に通学することになり、小学生は富田小学校に通学することになるが、生活範囲が変わってくことに不安を持っている。
- ◆ 学校がなくなることで、先々に不安を感じている。
- ◆ 学校再編では、なぜ人数が多い学校の方に行くことになるのか？
- ◆ 学校がなくなることで、阪谷に住む意味がなくなってくる。
- ◆ 学校が近い方がいいので、家族で阪谷地区から出て行くことが起こる。

第2テーブル【地域福祉】

- ◆ 運転免許返納後の不安がある。共助型移動支援（シェアリングエコノミー）の動きが加速してほしい。第2層協議体がそういった悩みの解決に繋がると良い。
- ◆ 子育て支援は取組みが充実していると言われるが、出産できる病院、総合病院が必要。一方で阪谷地区は地区内に山川医院があってありがたい。
- ◆ 小学校の統合があり、次は保育園への不安がある。地域の中で子ども達が集まる機会が減っていくことを危惧する。
- ◆ 行政側も「人口が減っているから無くす」というのではダメだと思う。維持増加策や活性化に向けた取組みをセットで考えてほしい。
- ◆ 今後、一人で屋根雪下ろしなどができなくなる。阪谷地区住民でシェアハウスができると良い。学校跡地活用の議論の中でも、高齢者のシェアハウスのアイデアは出ており、みんなで支え合える地域を考えられると良い。
- ◆ 買物に関しては、生協の移動販売が来てくれてありがたい。本音を言うと、もう少し頻度を増やしてきてほしい。（テーブルにいた人は、全員ネットショッピングはしていない。）
- ◆ 一人一人が持っているスキルを出し合えば、（人が減っても）なんとかなる。
- ◆ 退職後の男性は、社交的になる方と家に引きこもる方とに分かれる。男性の孤独は心配であり、出かけやすい工夫が必要。

第3テーブル【農業】

- ◆ そもそも田んぼに出ている人が少なくなっており、自家用の野菜を作る人もいなくなっている。
- ◆ 大型農家に農地を預けると草刈りと水の管理ぐらいしかしなくなるが、米等の売り上げが入るわけでもなく、ボランティアで成り立っているような状況である。場合によっては、そういった世話すらしめない農家が増えてきている。
- ◆ 農業自体が経営として成り立っていないうえ、中山間地域である阪谷地区は、平地（上庄地区や富田地区）より生産性、耕作効率がよくない。
- ◆ 農地を管理しないといけないという義務感で頑張ってきたが、加齢により難しくなっている。
- ◆ 今は地区に大規模農家がいるので、まだ農地の預け先があるが、その大規模農家には後継者がいない。阪谷地区の農業をどのように守っていくのかが課題で、早い手当てが必要。このままでは耕作放棄地が増える可能性がある。
- ◆ 儲かる農業の実践、農家の魅力向上を図るとともに、農業分野での人材育成、担い手の掘り起こしが必要である。外国人労働者の受け入れも一つかも。
- ◆ 国の農業政策に振り回されている感がある。制度に乗って購入した機器の維持管理ができないといった問題が生じることがある。
- ◆ 耕地整理から50年が経過し、昔の地形に戻ろうとする作用によって変な所から水が湧き出るなど農地に不具合が出てきている。